

健康都市づくり



健康づくりを支援

北茨城市では誰もが安心して暮らせるまちを目指し、「健康都市づくり」を推進しています。2018(平成30)年4月には、「北茨城市生涯学習センター(とれふる)」を開設。講座室・創作活動室・調理実習室・和室などを備えた「学習館」と、低料金で健康増進トレーニングができる「健康館」を活用できます。

また、株式会社タニタヘルスリンクとの連携も北茨城市ならではの。タニタの管理栄養士が行う、市内飲食店のヘルシーメニューの監修や、健(検)診受診・体重改善・運動等に応じてポイントを付与し、記念品と交換できる「健康ポイント事業」などを実施中です。

さらに、「北茨城市コミュニティケア総合センター(元気ステーション)」では、健康・医療・福祉に関する総合相談なども行っています。



「北茨城市生涯学習センター」は「多彩な学び」と「健康増進」の場であるほか、「災害時における北部地域の防災拠点」の機能もあわせ持っています



タニタ監修のヘルシーメニューはカロリー500kcal前後、塩分3g前後となっています。

充実の医療体制



北茨城市内には病院が3カ所、診療所が20カ所あります。その中核を担っているのが、2014(平成26)年に関南町に新しく完成した「北茨城市民病院」です。診療科目13科の総合病院で病床数は183床。良質な医療の提供のほか、市内に不足していた療養病床を新設するなど地域に即した医療を目指し、市民の健康を守っています。

さらに2015(平成27)年にはその附属施設として、一般外来に加えて、在宅医療や家庭医の育成を担う「家庭医療センター」を開設。医師が自宅を訪問して健康管理をしてくれるので、通院が困難な方でも安心して医療を受けられます。

温暖で暮らしやすく、心身ともに健康でいられる地域づくりが進む北茨城市。いざというときの医療体制も充実しており、自然豊かな場所で新たな人生を楽しみたいと考えているシニアの方々にもおすすめです。



県北地域の中核病院として期待される「北茨城市民病院」。病室の窓からは豊かな自然が望めます



中郷町にある「家庭医療センター」。筑波大学と協力して家庭医の養成も行っています

まだまだある!

北茨城市の注目の事業・制度

災害につよいまちづくり

北茨城市では、津波避難タワーや高台避難公園、防災井戸、備蓄倉庫を整備するほか、自治体や企業と協定を結んで災害時の応援体制を整えています。また、防災無線の内容やJアラート(全国瞬時警報システム)からの情報を配信するサービスも実施。(担当:総務課)

安心を生む 高齢者の生活支援

介護保険サービスとは別に様々な高齢者支援サービスを提供。リハビリ教室に参加する際のタクシー代を援助する「外出支援サービス事業」、独居の高齢者に食事を提供して安否確認をする「配食サービス事業」、緊急事態が起きたときにボタンを押しただけで消防本部につながる「緊急通報体制等整備事業」などもあります。(担当:高齢福祉課)

住まいに関する 各種助成

自宅を市内の施工業者によってリフォーム等を行う場合、価格の10%(最大10万円)を助成する制度があります。
※3年以上継続してその住宅に住んでいること等の条件あり。(担当:商工観光課)
ほかにも、所有住宅に太陽光発電システムを新規設置する場合に1kWあたり3万円(上限10万円)を補助する制度などもあります。(担当:生活環境課)

制度やイベントなどの詳しい条件については担当課までお問い合わせください。

余暇を楽しむ! 各種イベントの開催

「北茨城市立図書館」の前を流れる大北川は、野鳥の宝庫。立地を生かして「図書館パードウォッチングの会」を開催。また、生涯学習課でも多様な講座やスポーツ大会などを開催しています。さらに「磯原地区公園」にテニスコート16面が完成。学びにスポーツにと、余暇を楽しむ環境が整っています。(担当:図書館・生涯学習課)

北茨城市公式アプリ 「きたいばナビ」

市民のみなさんに身近な情報を提供するスマートフォン用アプリ「きたいばナビ」。特に子育て支援制度のお知らせや、「妊産婦健康管理」「予防接種スケジュール管理」など出産・子育て関連機能を充実。さらに「北茨城市ごみ分別アプリ」の機能も使えます。(担当:まちづくり協働課)



きたいばナビ

